

今報

瘦美

類字 遠音 鳳 本 芳 郎

恐国アメリカ

杉本芳郎

私が幼い頃、父にアメリカの事をなぜ米国と書くのか聞いてみました。父は大きな目をギロリと私に向けて冷たく言い放った。「恥を引きずっているんだよ。私が理解できなくて「えっ?」と言うと、「アメリカという発音が聞き取れずメリケンと言っていたんだ。漢字で書くと米利拳だ。昔、喧嘩の時めりけんを喰わせてやると言ったのも、この米利拳からだろ。イギリスの事もエゲレスと言っていたからイギリスを英国と書いているが、こんな事は知らない方が幸せかも知れない」と言っけて口を噤んでしまった。私も父が

怒りを堪えているように見えたので、それ以上は話さなかつた。

中国はアメリカを美国と書きます。ヨーロッパの古い建物を大切に保護している街に比べ新大陸アメリカは新しい街が次から次に生れ美しく見えたのでしよう。私達も、いつまでも恥をかき続けなくてアメリカを恐国と書く事を提案します。

何故アメリカを恐国なのかという理由は、アメリカの歴史にあります。アメリカは移民が成功して大国家を創りました。その犠牲になつたのはアメリカの原住民です。新国家を成功させ

第154号

発行 教室 美容会
 瘦美 瘦美会
 杉本芳郎 編集責任者
 杉本芳郎 本部事務局
 焼津市三和1092
 TEL(054)625-1141
 携帯 090-4214-0640

るためには原住民の生活を否定して新しいアメリカ人の生活をつくりました。ヨーロッパや日本のような歴史がないアメリカはマナー等も歴史を否定してアメリカンマナーを世界に押しつけてきました。ファミリーストランが最も鮮明に表われています。かつてキリスト教の布教で植民地を創ってきたヨーロッパの国々とアメリカのファミリーストラン、コンビニの進出と似ていると思いませんか?世界最大の国家を創るために形振り構わず行動しているアメリカに正面から立ち向かえる国は現状ありません。唯一アルカイダという組織が勇敢に戦っています。殺し合う事は賛成できません。ペンは剣より強いと言われます。私達はペンで恐国アメ

リカに挑んでみませんか。最近、中国、北朝鮮がアメリカに反発していますが、イスラム原理主義と同じ戦争への触発という危険を感じます。大勢の人がペンでアメリカに挑めば少しは変化があるのではないかと私は文化人として挑みたいと思います。

円高ドル安

一昔前、敗戦後の日本が急成長してアメリカ経済を脅かした70年代、アメリカの日本バッシングは凄まじいものでした。世界大戦に勝利したアメリカは地球の支配者の如くアジアやヨーロッパに兵を派遣し君臨してきました。そんなアメリカを脅かす国を形振り構わず潰しに掛かる恐い国がアメリカです。

日本の車メーカーがアメリカの世界のビックスリカーを潰しに掛かりました。現在の円高による経済的圧迫で日本が跪いても、アメリカがインフレ政策を続ける限り日本は跪き損です。

アメリカが円高を容認している限り円は高くなるばかりです。円高ドル安を利用してアメリカ経済を買う器量のある政治家が日本には居ないのでしようか。円高を容認したら日本は恐いと思わせるような器量は無いのでしようか。日本が円を導入した初期は1ドルが1円52円だったはずですが「1ドル83円が何んだ!」と言える経済人は居ないのでしようか?為替介入しても単独です。協調する国はアメリカが押えると思いま

首相、異例の円高けん制

ゼロ金利維持、日銀が対策検討

米地区連銀総裁「危険な賭け」

国が日本です。

私達動物は酸素を吸って炭酸ガスを体外に放出しています。木々は全く反対に炭酸ガスを吸って酸素を放出しています。私達はその酸素で生きています。森があるから、林があるから私達動物は酸素を吸って生きていくという事を知っている人間が森や林が炭酸ガスを必要としている事を忘れていくのではないのでしょうか。

私は炭酸ガスをたくさん出すことが地球を助け、私達の生活を守ることではないかと思えます。CO₂削減を目的にアマゾンの森林を切り開き、代替燃料用のとうもろこしや大豆を生産する社会に恐ろすら覚えません。

捕鯨反対？

なぜ鯨を捕ってはいけなのですか？

なぜ鯨を食べてはいけなのですか？

そもそも捕鯨反対は、いつ頃から始まったのか思いついて下さい。ベトナム戦争が終結して世界が落ちつ

きを取りもどした頃からですね。

ベトナム戦争でアメリカは枯葉剤を使用しました。

著しい環境破戒であると世界中から批判を受けました。

私の目から、アメリカがこの批判から世界の目を逸らす目的で捕鯨反対を強力に世界に訴えたと見えました。

特に、世界で海洋調査をしている捕鯨国は、日本だけですから、先づ日本から潰しておく必要性を感じたのでしよう。「日本はたくさん鯨を殺して環境破戒をしている」と言い出したようです。

昔は、アメリカが一番盛んな捕鯨国で二番がイギリスでした。産業革命から機械を導入するようになり、油が多量に必要なようになったからです。当時は鯨から油を取っていました。

石油、石炭が採掘されるようになってから捕鯨から手を引いたようです。日本と違い鯨の油だけが捕鯨の目的だったのでないかと私の感想です。アメリカは

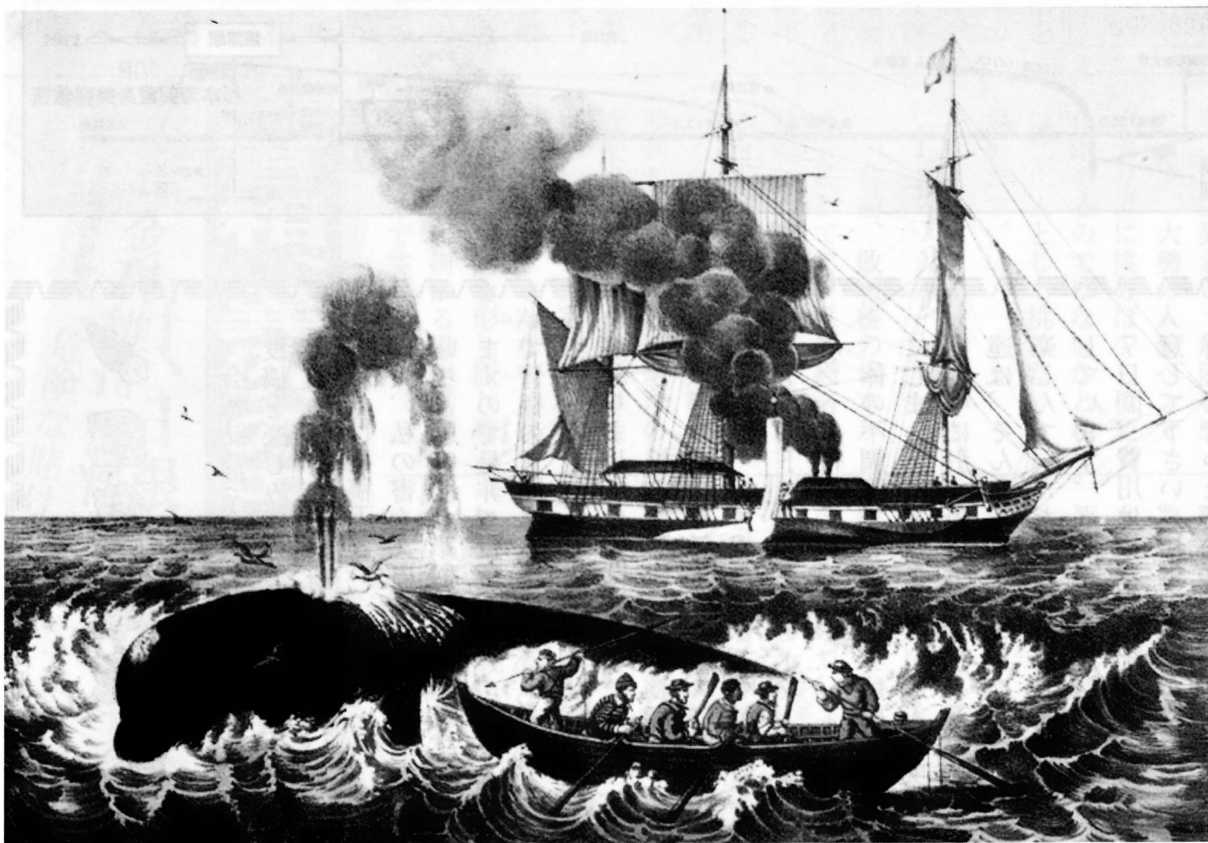
鯨を捕っても油だけ抜いて重量がある鯨の死体の処理は、海の底に捨てたと言われています。

自分達が過去犯した環境破戒を現在日本もしていると思ったのか日本が鯨を捕鯨母船で解体して捨てる物が無いほど日本本国に持ち帰るのを知っていてもほとんどの国がアメリカと同様の環境破戒をしていたので日本の捕鯨バッシングをすれば世界が同調すると思つたのか強力に「捕鯨は環境破戒だ」と訴えたのではないのでしょうか。

しかし、日本が鯨を捨てるどころがないと言われるほど活用している事を世界の人が知ってしまうと、困つたアメリカは恥曝しとも思える「鯨やイルカは人間と同じ哺乳類で賢くてかわいい。それを殺して食べる日本人は野蛮だ」というような事を言い出したようです。

この意見には即、批判が出ました。「牛や豚もかわいい哺乳類ではないのか」。さて困つたアメリカは恥の

上塗りとも言える「鯨やイルカが激減している」と言い出しました。「鯨の海洋調査をしている国は日本だ



けのはずです。アメリカが
言える言葉ではないの
に！」と私は思います、
皆様はどのように思われ
るのでしょうか？

座頭鯨はニシンが大好物
です。一口で大量のニシ
ンを食べてしまいます。一昔
前は余るほど捕れたニシ
ンが捕れなくなりました。イ
ルカは大量のイワシを食べ
ます。大型海洋生物がニシ
ン、イワシ、サンマ等小魚
を食べつくしてしまいます
から、海の生態系は狂いま
す。

大型海洋生物に外敵が少
ないので、増え過ぎるばか
りです。そして海の中で死
を迎えます。これを自然で
良いと思う人もいます。し
ょうが、大型生物が大量に海
の中で死んだとします。死
体は腐ってガス化したら海
温は上昇します。北極の海
温が上がれば氷は溶けます。
南洋でも海温が上がります。
温暖化も、そんなところに
あると私は思っています。
何もかもアメリカに踊ら
されていけないで、皆様も考
えてみて下さい。私は、私
の考えを押しつけるつもり

はありません。だから公で
話しませんが、私の教室に
通われる人は、たくさんの
選択肢の中から正しい答え
を導き出していただきたい
ので13号154号の会報誌には
辛口の意見を載せました。
原爆の日を茶番劇と言え
ば気を悪くされる人もい
るでしょうが、今年韓国併
合100年です。この記念式典に
日本の閣僚も出席して、ご
迷惑を掛けた韓国の市民に
一言お詫びを申し上げます
きだと思いました。中国に
も北朝鮮にも多大な迷惑を
掛けています。終戦記念日
は先ず、日本が迷惑を掛け
た国にお詫びをして、その
上で被爆国の日本が強制労
働により被害にあった朝鮮
人を供養した上で原爆の日
を迎えれば私は茶番劇等と
揶揄することもありません。
政治家が駄目だからと
諦めていないで、国民一
人ひとりが駄目な政治家を
助けてやることも国民の義
務です。恐国アメリカから
独立するには政治家の力
では無理であるとするれば、
私達国民のペンの力が必要
であると思えます。



VIP
杉本芳郎瘦身美容教室
静岡県焼津市栄町2丁目(焼津駅前アンビビル1F)
TEL 090-4214-0640

足・腰を痛めないために
こびとの靴屋

足・腰を痛めた人は
杉本芳郎の靴屋

足・腰を治したい人は
杉本芳郎瘦身美容教室

特別指導(予約)
VIP教室

本部 〒425-0064 静岡県焼津市三和1092 TEL 054-625-1141

TEL054-629-4187



編集後記

会報誌「瘦美」の読者は、皆様のご
投稿を楽しみにしています。人に伝
えたい気持ちを箇条書きでもかまいま
せん。ご投稿下さい。

又、私の書く文に異論を持つ人も
いると思います。私の勉強にもなり
ますので是非ご投稿下さい。Q&A
で皆様の質問にお答えするコーナ
ーも大変人気があります。疑問、質問
がありましたらご投稿下さい。

さて、杉本芳郎瘦身美容教室ヨ
ロッパの旅、来年はイギリスに決ま
りました。シェイスクピアゆかりの
ストラットフォード・アポン・エイ
ボンへも行きます。

体の不調等でヨーロッパは夢の中
にしまい込んでしまっている人。現
実の中に引つ張り出しましょう。私
達は、そんな人にこそヨーロッパを
楽しんでいただきたいと思います。企画
しています。平成23年1月14日から
7日間、費用は10万円とチョット用
意して下さい。秘書の梅木が皆様に
喜んでいただきたいと、お電話を
お待ちしておりますよ。

杉本芳郎